

# 009 地下街やビルの管理者が連携して取り組む水防対策

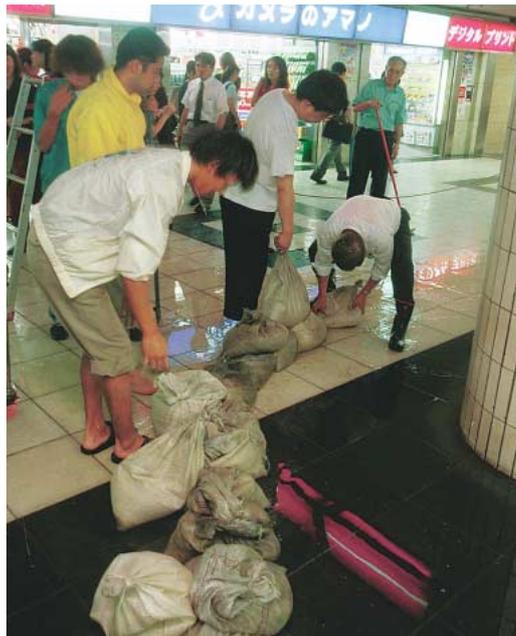
名古屋市では、河川の氾濫で地下鉄駅に大量の水が流入し線路が冠水した。内水氾濫で道路も冠水したが、地下街では止水板の効果で浸水を免れた。地下施設が集中する地区では地下街やビルの管理者が協力して防災活動を展開するとともに、行政とも連携して水防対策に取り組んでいる。

## 地下鉄の駅も浸水被害に

9月11日の豪雨では、市営地下鉄桜通線の野並駅が浸水被害に見舞われた。野並駅のすぐ近くを流れる郷下川は、天白川水系の小さな川で川幅が狭い。このため大雨で一気に増水し氾濫した。付近の道路は冠水し、濁流は野並駅の出入口4カ所と駅に繋がる地下駐輪場の出入口2カ所の計6カ所から激しい勢いで流れ込んだ。野並駅の出入口には止水板が立てられたが、濁流は止水板を越えて流入した。また地下駐輪場の出入口には、平常時は床に格納されている止水板があり、浸水時に職員がこの止水板を立てようとしたが立てられず、大量の水が駐輪場と駅構内に流れ込んだ。流入量が多く、線路は約2mの冠水となった。

地下施設への浸水を防ぐ方法として、止水板は最も簡単で効果的な方法である。その止水板が浸水時に使用できなかったという事態に、名古屋市は早速その原因究明の調査を行った。その結果、地下駐輪場の止水板の点検が最後に行われたのは1年前で、止水板が動かなかったのは、点検後に床と止水板の間に詰まったり挟まったりした泥や砂利が原因であることが分かった。市ではこうした事態の再発を防ぐため、すべての市営地下鉄駅で止水板が正常に作動するかどうかの緊急点検を行った。現在、止水板の設置の在り方や点検時期・方法等についても見直しが行われている。

止水板が防ぎきれない浸水もあった。9月11日、名古屋市で降り続く雨が最も激しくなった午後6時50分頃、天白川の支川の植田川が氾濫、溢れ出した水は200mほど離れた所にある市営地下鉄鶴舞線の塩釜口駅に流れ込んだ。駅員が高さ約50cmの止水板を立てて浸水を防ご



[左] 浸水した地下街では、水の掃き出しや土嚢積みにも追われた  
[上] 地下街に流れ込む雨水を掃き出す人たち  
[下左] 浸水した半地下にあるコンビニエンスストア  
[下右] 店内では多くの商品が水に浸かった



うとしたが、水は止水板を越えて地下2階のホームまで流れ込んだ。通常、地下鉄駅には漏水等で線路などに流れ込んだ水の排水やトイレの汚水処理用に、それぞれ常設されているポンプがある。この日は塩釜口駅でこれら2台のポンプを使って排水が行われたが、浸水対策用に設置されたポンプではなかったため、その排水量には限りがあった。流入量が排水量を大きく上回り、線路は約1.5mの深さまで冠水した。

ビルの半地下にあるコンビニエンス・ストアが浸水するケースもあった。道路に溢れた水が外階段から直接流れ込み、

店内は水浸しとなった。最近、都市部の個人ビルなどでは、狭い土地を有効活用するため半地下や地下室を設ける所が増えている。こうした地下施設には飲食店や小売店などのテナントが入ったり、駐車場等に利用されているが、個人ビルでは止水板や防水扉の設置など、浸水に対する備えが十分でない場合が多く、以前から浸水の危険性が指摘されていた。

## 必要なビル管理者の連携

JR名古屋駅周辺では内水氾濫があった。駅前の桜通りが冠水して地下街への流入が心配されたが、各出入口に立てられた